

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—51392

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和58年(1983)3月26日

G 06 K 15/00

7313—5B

G 06 F 3/12

7313—5B

発明の数 1

13/00

7361—5B

審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑮ ファイルコピー方式

⑯ 発明者 小笠原信雄

川崎市中原区上小田中1015番地

富士通株式会社内

⑰ 特 願 昭56—150993

⑱ 出 願 昭56(1981)9月24日

⑲ 出 願 人 富士通株式会社

川崎市中原区上小田中1015番地

⑳ 発 明 者 山本昭之

川崎市中原区上小田中1015番地

㉑ 代 理 人 弁理士 松岡宏四郎

富士通株式会社内

明 細 書

1. 発明の名称

ファイルコピー方式

2. 特許請求の範囲

日付データが付された個別ファイルで構成される第1のファイルと、第2のファイルとを有し、前記個別ファイルのデータを第2のファイルに転写するファイルコピー方式において、日付けデータが書き込まれる日付け格納部を前記第2のファイルに設け、該日付け格納部の日付けデータを更新する手段と、該日付けデータと前記個別ファイルの日付けデータとを比較判別する手段とを備え、前記日付け格納部の日付けよりも新たな日付けデータを有する個別ファイルのデータを前記第2のファイルに転写せしめることを特徴とするファイルコピー方式。

3. 発明の詳細な説明

本発明はファイルデータを他のファイル装置へ転送して格納するファイルコピー方式に関する。システムプログラム等のように規模の大きなプ

ログラムは、複数のプログラムで構成され、その開発には多数のプログラムが参加する。このような開発作業においては、毎日、異なる作業員(プログラマ)により、システムプログラムの納められたファイルが、個別に、しかもランダムに更新されるので、そのファイル管理が重要となる。このため2つのファイルを用意し、第1のファイルを更新用とし、作業終了後(例えば夜間)に、第1のファイルのデータを第2のファイルにコピーしてファイルを保護する方式が採用されている。このコピーに際し、従来は第1のファイルのデータ全部を第2のファイルへ転送してコピーする方法が採られていたが、ファイルのデータ量が膨大となった場合にコピーに許される処理時間内にコピーを完了できない欠点があった。

本発明は上記の欠点を解決するためになされたもので、ファイルのコピー効率を向上するファイルコピー方式の提供を目的とする。

本発明は、日付けデータが付された個別ファイルで構成される第1のファイルと、第2のファ

ルとを有し、前記個別ファイルのデータを第2のファイルに転写するファイルコピー方式において、日付けデータが書き込まれる日付け格納部を前記第2のファイルに設け、該日付け格納部の日付けデータを更新する手段と、該日付けデータと前記個別ファイルの日付けデータとを比較判別する手段とを備え、前記日付け格納部の日付けよりも新たな日付けデータを有する個別ファイルデータを前記第2のファイルに転写せしめることを特徴とするファイルコピー方式である。

以下、本発明を図面によって説明する。図面は本発明の一実施例を説明するブロック図であり、1、6はファイル装置、2は処理装置、3は制御装置、4は処理部、5はメモリ、 $D_1$ 、 $D_2$ は日付けデータ、 $F_1$ 、 $F_2$ 、 $F_n$ は個別ファイル、 $d$ は日付け格納部である。図面におけるファイル装置1が更新用ファイル、またファイル装置6がバックアップ用のファイルである。処理装置2からの個別ファイルデータは、制御装置3において、その日の日付けデータ( $D_1$ 、 $D_2$ ……)が付さ

特開昭58-51392(2)

れてファイル装置1に格納される。またファイル装置6の日付け格納部 $d$ の日付けデータは、コピー終了後に更新されるものとする。図面において、ファイル装置1内の個別ファイル $F_1$ 、 $F_n$ は前日(日付けデータ $D_1$ で示す)更新され、ファイル $F_1$ は今日(日付けデータ $D_2$ で示す)更新されたものとする。一方日付け格納部 $d$ の日付けデータは前日の日付けデータ $D_1$ が格納されている。ファイル装置1内の個別ファイル( $F_1 \sim F_n$ )をファイル装置6にコピーする際、処理部4は、個別ファイル( $F_1 \sim F_n$ )をメモリ5に取出し、それに付された日付けデータと、日付け格納部 $d$ の日付けデータ $D_1$ とを比較照合し、不一致( $D_1 < D_2$ )の場合にのみ、該個別ファイルをファイル装置6へ転送する。図面においては、個別ファイル $F_1$ のみが、これに該当し、ファイル装置6に転写された場合である。なおファイル装置6内の個別ファイル $F_1$ 及び $F_n$ は前日コピーされたものである。コピー終了後、処理部4は、ファイル装置6内の日付け格納部 $d$ の日付けデータを更

新( $D_1 \rightarrow D_2$ )する。

以上のように本発明は、当日登録された個別ファイルのみを、バックアップ用ファイルに転写せしめることにより転写に要する処理時間を著しく短縮しうる利点を有する。

#### 4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例を説明するブロック図であり、図中に用いた符号は次の通りである。

1、6はファイル装置、2は処理装置、3は制御装置、4は処理部、5はメモリ、 $D_1$ 、 $D_2$ は日付けデータ、 $F_1$ 、 $F_2$ 、 $F_n$ は個別ファイル、 $d$ は日付け格納部を示す。

代理人 弁理士 松岡 宏四郎

特開昭58-51392(3)

